

「海洋表層の物理過程と海洋生態系・水産資源」

コンビーナー：万田敦昌（長崎大大学院）・山田東也（水研セ西海水研）

日時：2015年12月11日（金）10:00～17:00

場所：長崎大学水産学部大会議室（長崎市文教町1-14，電話 095-819-2793）

<http://www.fish.nagasaki-u.ac.jp/main/access.html>

問い合わせ先：

〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科 万田敦昌

電話：095-819-2810，email: manda' at' nagasaki-u.ac.jp ⇒' at' を@に変換してください

【開催趣旨】

海洋表層における放射・流動・乱流混合などの様々な物理過程は、海洋低次生態系の動態を規定する主要因であり、また水産資源の変動に対しても極めて大きな影響を及ぼす。近年の技術革新により、これら物理過程を研究するための観測技術およびシミュレーション技術は長足の進歩を遂げ、数多くの観測・シミュレーション結果が報告されている。今後、海洋表層の物理過程が低次生態系に及ぼすメカニズムを解明し、将来の水産資源変動の予測に資するためには、これまで得られた様々な研究成果を統合していくことが必要不可欠であるが、これまでのところ、分野の細分化や限定的な研究者間の交流などが影響し、関連する分野間の交流が進んでいない。本シンポジウムは、そのような現状を打破する一助となることを目的としている。放射・流動・乱流混合のような海洋表層の物理素過程を研究する上で現在何が課題となっているのか、また、海洋低次生態系ならびに水産資源の変動を理解し予測する上でどのような物理学的・生物学的情報が不足しているのか、関連分野の研究者が一同に会して議論し、今後の研究の進展に役立てたい。素過程の理解のための現地観測、統合化・将来予測に不可欠なモデリング、どちらの視点も議論を深めるために必要不可欠であり、双方の観点からの意見交換の場となることを期待している。

<プログラム>

10:00 開会の挨拶：日本海洋学会西南支部長 山城徹（鹿児島大）

10:10 趣旨説明：万田敦昌（長大院水環）・山田東也（水研セ西海水研）

座長：万田敦昌

【基調講演】

10:20 放射伝達数値モデルと応用

田中昭彦（東海大清水教養教育セ）

【話題】

10:50 2点角を用いた後方散乱係数の高精度推定法

丹佑之（国際海洋開発）・大石友彦（東海大海洋）

田中昭彦（東海大海洋）・Roland Doerffer（ヘルムホルツ研究所）

11:10 ー休憩ー

11:20 海洋表層の乱流混合と植物プランクトン動態

吉川裕（京大理）・鬼塚剛（水研セ瀬戸内水研）

紫加田知幸（水研セ瀬戸内水研）・油布圭（九大応力研）

11:40 内部潮汐が有明海の鉛直混合に果たす役割

堤英輔（九大応力研）・松野健（九大応力研）

12:00 ラングミュア循環流の形成機構と湖沼・内湾におけるその影響に関する研究

鵜崎賢一（群馬大工）

12:20 一昼休み(日本海洋学会西南支部総会)ー

座長：山田東也

- 13:50 山陰沖遠距離海洋レーダ観測海域における流動場とプランクトン分布
滝川哲太郎(水大校)・小針統(鹿大水産)・森本昭彦(愛媛大沿岸セ)
渡辺俊輝(山口水研セ)・永沼元(名大院環境)・首藤雄一郎(水大校)
杉谷茂夫, 岩井宏徳(NICT)・久島萌人(名大水循環セ)
藤井智史(琉大工)・市川香(九大応力研)・雨谷純(NICT)
- 14:10 対馬海域における動物プランクトン群集の時空間変動
兒玉聡伸・小針統(鹿大水産)・滝川哲太郎(水大校)・渡辺俊輝(山口水試)
- 14:30 北部薩南海域における動物プランクトン群集組成および生産力
遠藤有紀・小針統・新屋敷真玄・久米元(鹿大水産)
- 14:50 モデル解像度の違いで生じる日本海の生態系応答の変化
高山勝巳・広瀬直毅(九大・応力研)・鬼塚剛(水研セ・瀬戸内水研)

15:10 ー休憩ー

座長：万田敦昌

- 15:20 宮崎県海域における長期的な沿岸資源変動と海況変動
渡慶次力・齋藤友則・清水博(宮崎水試)・片山知史(東北大院農)
- 15:40 対馬沿岸における協働海洋学的漂流ブイ観測による地域知の発掘
清野聡子(九大院・工)・田井明(九大・高等)・須崎寛和・西山浩司(九大・工)
小森茂和(ゼニライト)・和田雅昭(はこだて未来大)
- 16:00 五島列島福江島北西部における漁業者の経験知についての沿岸海洋学的検証
須崎寛和(九大・工)・田井明(九大・高等)・清野聡子(九大院・工)

16:20 【総合討論】

17:00 ー閉会ー